

# 1

January

毎月

**各指標の騰落・隔隔率など**

指標	騰落	隔隔率	12月4日現在
日経平均	46197.12	71.19%	1.8倍
日経小企業	1168.52	79.20%	1.8倍
外資系大企業	23881.82	67.09%	1.8倍

**直近10年間の騰落**

隔年	04年	05年	06年	07年	08年
○	○	○	○	○	○
×	×	×	×	×	×

**当月の傾向**

前半は12月後半に活躍した個人投資家が引っ張っていくが、本流の買い主体ではないため、その時期に活躍した株式とは違ふ銘柄が有利。後半は外資の動向に集約されるので、裁定残や信用残に注意すべき。高水準だと大きな落とし穴がある。この時期から2月の45日ルールや部分天井などの対策が必要。

**物色傾向とポイント**

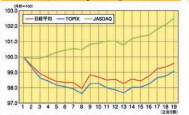
前半は換金に力を入れ、後半は12月に発表された外資レポートなどから行動を決める。新春の資金はオイルマネーが多く、年末の欧米外資系の思惑に沿った傾向が出やすい。

**注視カテゴリ**

- ①高利回り株
- ②政策に沿った企業
- ③12月31日閉鎖に備えるため、市場の物色は外資に偏るが個人投資家はこの時間から次を考える。②は2月の利金を意識したのも。

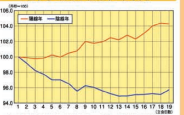
**株式**

**日経平均・TOPIX・JASDAQの平均推移**



基本的に年末の期待を裏切るスタートをしやすい。年末に今年の先取りをしている傾向。すでに3連体があるから、運用者や法人が動きにくく、個人投資家中心の材料株が元気な中々にグラフでは傾向は表れない。第3選取期から外資などの新規資金が流入しやすい。

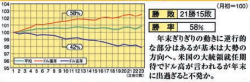
**日経平均の隔隔月・隔隔月の平均推移**



良くも悪くも前半は似た形であり、判断は付き難い。立会い6日選取期で大きく変わるのは個人投資家から運用者に投資主体が変化するため。12日前後で伸び弱むのは、強くて過熱し過ぎの反動。下落時は外資の買いきが少なく、早くも一落するたため。

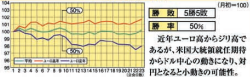
**FX**

**米ドルの平均推移 (対円)**



年末までの動きは逆行部分はあるが基本はドル高の方向へ。米国の大統領就任期待でドル高が言われるが年末に出過ぎると不発か。  
近年ユーロ高からジリ高であるが、米国の大統領就任期待からドル中心の動きになり、対円などとの動きの可能性。

**ユーロの平均推移 (対円)**



**源太の作戦**

米国の大統領就任を前に思惑がくすぶるが、総てドルが就任時には強く作用する傾向が過去からある。ハイテクなどに期待は重なりやすい。政策が動き始めたら物色対象が関係銘柄に偏る。大統領の力を試す下落なども先に考えられるから。2月前まで投資比率は軽くすべき。SQ株の週末が3連休だが、セオリーの3連休を基点に市場の方向性が出る。連休後の13日から市場変化が促りやすいので、選取に動ける状況しておく事。NYの休みも控えて流れやすい要素も加味。14日に方向を見極めから外資動向に順張り。27日から用心の手仕舞い。

2008 12						2009 1								
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7	
	7	8	9	10	11	12	13	8	9	10	11	12	13	14
	14	15	16	17	18	19	20	15	16	17	18	19	20	21
	21	22	23	24	25	26	27	22	23	24	25	26	27	28
	28	29	30	31										

2009 1 January

H SUN	月 MON	火 TUE	水 WED	木 THU	金 FRI	土 SAT
28	29	30	31	1 元日	2	3
4	5 大株会	6	7	8	9	10
11	12 成人の日	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31